

歯科

歯科医師 小野 万記子

診療体制

近森病院歯科は2019年4月に開設され、2023年に5年目になります。診療の8割は病棟往診を行い、術前術後の週術期口腔機能管理、化学療法中の口腔管理を行っています（図1）。

診療体制につきましては、2023年3月に前任の万代とし子歯科医師より小野が歯科診療を引き継ぎ、非常勤歯科医師として、岡山大学病院医療支援歯科治療部より曾我賢彦歯科医師、山中玲子歯科医師、吉富愛子歯科医師が、2023年10月からは地元高知より笠井めぐみ歯科医師が勤務しております。また歯科衛生士としては、北川DH、影山DH、橋村DH、近藤DH、坂本DHに加え、2023年3月から北村DH、4月から門田DH、6月から澤田DHが加わり、8名体制となり、看護補助者として病棟の業務を兼務しながら診療のサポートを行っており、2024年4月からは新たに1名加わる予定で、さらなる診療の充実を図るとともに、来年度は全病棟に歯科衛生士を配置し、入院患者さんの口腔衛生管理の強化を図っていく予定です。



図1 院内の患者さんに向けてのポスター

診療実績

歯科の診療はすべて医科からの院内紹介により成り立っています。

患者層としましては、術前術後の方、および化学療法中（予定を含む）の方が9割ほどを占め、他には、入院患者さんの感染性疾患に対する口腔内感染源精査・口腔衛生管理、ビスフォスフォネート製剤（顎骨壊死のリスクのある薬）投与開始前の口腔内精査、入院中の緊急性の高い歯科治療（動揺歯の抜歯、義歯調整、疼痛歯の治療等）を行っております。

術前術後口腔管理の依頼としては、心臓血管外科・循環器内科からの心疾患の手術や呼吸器外科からの肺癌の手術、外科からの癌の手術、整形外科からの人工関節置換の手術等多岐にわたり、各科より多くの口腔管理のご依頼を頂いております。さらに地域連携も重視し、必要に応じて退院後はかかりつけ歯科もしくは地域の歯科医院への診療情報提供も行っています。

また化学療法の場合は、化学療法開始前より医科よりご紹介いただき、今後起こりうる化学療法の副作用としての口腔粘膜炎症等有害事象の説明、予防策をお伝えし、化学療法中は入院中の病室往診のみでなく、外来の化学療法センターへの往診も行っております。当院歯科としては、主に口腔粘膜炎症に対する診察、処置を行っており、それ以外の一般的な歯科治療は地域の歯科医院

で行っていただく、という病診併診の形をとっております。

このように適切な口腔管理・専門的口腔ケアを行うことにより、口腔内細菌による肺炎、敗血症の予防、化学療法中の副作用による粘膜障害の予防や粘膜炎への早期対応ができるようになりました。

歯科のこれから

2019年に診療科としてスタートして以来、口腔管理の重要性も認知され、多くのご紹介を頂き、患者数も増えている中、たくさんのスタッフに支えられて様々な院内の医療者、患者双方のニーズと、病院と地域の歯科医院との関わりをつなぐ担い手としてこれからも邁進していきます。